

令和5年度後期 学生を対象とした授業評価アンケートに対する改善報告書

授業科目名：看護研究方法特論Ⅱ	授業コード：M11012
担当教員氏名	岡田実 他
<p>研究計画書の作成と研究倫理審査委員会への申請、いずれも初めての経験だったと思います。データ収集に走り回る前に、研究倫理審査でへとへとになったかもしれません。研究に取り組む入口ですから、この一連の経験は修論作成のプロセスと同様、皆さんにとって貴重な経験になったと信じています。大学院に係る全教職員が院生皆さんのこうした経験を一生懸命支援していたことを忘れないでください。そして、修了後もこの繋がりは続きますので、いつでも連絡をとって指導を仰いでください。</p>	

授業科目名：臨床倫理特論	授業コード：M11003
担当教員氏名	清水哲郎、濱中喜代、石井真紀子
<p>5段階評価で答える部分は概ね好意的に評価されているが、授業の回数や1回の進捗について、手放して「良い」とは言えないところを感じた方もおられたようなので、今後その点は確認しつつ授業を進めたい。特に「授業から知的刺激を受け、関連する学修を深めたいと思ったか」という問いに、全員が「5. 強くそう思う」と答えておられた点は、自由記述の「新鮮で、これまで使っていなかった部分を使ったような感覚」「医療者・支援者の「支援の方向性」が異なるときに、授業で学んだ「カンファレンスシート」が役に立つ... 専門職の間でこのようなシートが広がれば...と思った」などの感想とも考え合わせると、臨床倫理について当方が期待していた理解をしていただいたと、嬉しく思った。</p> <p>今後も履修者の意見を聞きながら授業を進め、臨床現場に役立つ実践知を持ち帰ることができるように改善すべきところは改善していきたい。</p>	

授業科目名：多職種連携特論	授業コード：M11004
担当教員氏名	大沼由香、三浦靖彦
<p>4名の受講生から大変高評価をいただきました。</p> <p>ほぼすべての項目が5段階で5の評価でした。熱心に取り組んでいただき、充実した授業となりました。受講学生の状況を聞いて事例を変更するなどの工夫をしたので今後も工夫していきたいと思います。</p>	

大学院 看護学研究科

授業科目名：コンサルテーション特論	授業コード：M11009
担当教員氏名	岡田実
<p>コンサルテーションという行為は、意識していようとまいと、相当広い範囲で行われていることをご理解いただけたと思います。その手法は専門的なのですが、基本は対人関係を建設的に積み上げていくということであることもご理解いただけました。自分の課題、自分のこだわりになりに向き合って課題に取り組んでくれたと思います。</p>	

授業科目名：地域看護学特論Ⅱ	授業コード：M21006
担当教員氏名	鈴木るり子
<p>特論Ⅱでは、近藤克則、近藤尚己の文献を基に、公衆衛生看護活動を概観した。 特に、健康格差社会の捉え方、ハイリスクストラジーとポピレーション・ストラジーの捉え方について議論できたことが授業評価に結び付いたと考えている。 実践の場での「問い」を講義の場で議論できるように改善を図りたい。</p>	

授業科目名：地域看護学演習Ⅱ	授業コード：M21008
担当教員氏名	鈴木るり子
<p>後期の授業は自己の研究テーマの決定、研究概要発表、さらに研究倫理申請書の作成に取り組む内容であった。結果として、授業評価に「授業の成果を研究に活用できる」とあるようにすべて達成できたことは学友と共に努力した賜物と考えている。 次年度の看護学特別研究について、計画案作成も講義の中に取り入れたことから研究についてイメージできたと考えている。</p>	

授業科目名：看護管理学演習	授業コード：M41004
担当教員氏名	伊藤収、土田幸子
<p>大変、高い評価を得た。さて、今年度は前岩手県立中央病院看護部長の高橋明美氏を非常勤講師に迎え、意義深い多くの助言を得たことで、学びが深まり、かつ本県の実情により即した内容の濃い演習となったと思われる。 また、本科目は、修了後の「認定看護管理者資格」の取得に大いに影響する科目のため、前期の「看護管理学特論Ⅰ～Ⅲ」と比べても、履修生の負担はかなり重くなる内容となっているが、履修生のお二方は大変努力されていたと実感している。 さて、改善点としては、履修生が2名となることでプレゼンテーション後の検討時間が昨年度（履修生1名）に比べ、少なくなってしまったことに、どう対処するかという点である。 この点については、履修生の数に影響されるため、次年度の履修生が2名以上となった場合は、プレゼンテーションの課題提示の口頭説明分の配布資料化を検討することとしたい。</p>	

大学院 看護学研究科

授業科目名：看護学特別研究	授業コード：M51001
担当教員氏名	岡田実 他
<p>修士論文を仕上げるプロセスを身をもって経験されました。入学当初、大学院はカルチャークラブではありません…、と申し上げました。座して与えられるものではなく、自ら進んで得るもの…、これが大学院だと考えたからです。院生の皆さんがこの事を経験できたことが、今後にしっかりつながると考えています。</p>	

令和5（2023）年度授業評価アンケート

【科目名：大学で入力】

本アンケートは、大学院における授業改善を目的として実施しています。個人を特定できないよう無記名でご回答いただけます。回答は自由意志ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。

※教員が複数で担当している場合はおおむねの状況で判断し、特記事項については自由記述欄に記入してください。

以下の質問について、あてはまると思う番号を選択してください。

No.	質問内容	全くそう思わない	1	2	3	4	5	強く思う
1	シラバスの概要、目標、内容、方法、評価基準は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
2	指定された参考図書や教科書は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
3	配布されたレジュメや資料は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
4	授業の回数は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
5	1回の授業での進度は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
6	開講時期や曜日、時間は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
7	講義方法は、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
8	授業は、理解しやすい内容でしたか。	1	2	3	4	5		
9	教員の指導やコメントは、適切でしたか。	1	2	3	4	5		
10	プレゼンテーション（担当課題）の事前準備は適切でしたか。	1	2	3	4	5		
11	演習や課題等に関する事前・事後学修は適切でしたか。	1	2	3	4	5		
12	授業に参加する態度（質問や発言）は適切でしたか。	1	2	3	4	5		
13	授業から知的刺激を受け、関連する学修を深めたいと思いましたか。	1	2	3	4	5		
14	授業の成果を研究活動に活用できると思いますか。	1	2	3	4	5		
15	この授業に関する感想、意見、要望をご自由に記載して下さい。							

※授業評価アンケートは Google フォームにて回答を求めた。

2023 年度授業評価アンケート内容（看護研究方法特論Ⅱ）

【科目名：看護研究方法特論Ⅱ】

本アンケートは、大学院における授業改善を目的として実施しています。個人を特定できないよう無記名でご回答いただけます。回答は自由意志ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。

質問 1～2 について良かった点や困った点、今後のご要望をご回答ください。

No.	質問内容	回答方法
1	研究計画書作成から研究計画概要発表会への参加、指摘事項に対するレターの作成まで（研究背景・目的・研究方法・研究デザイン・データ収集方法及び分析方法の検討・倫理的配慮・質問紙の作成・依頼文の作成・研究計画のプレゼンが含まれます）	自由記述
2	その他、自己の研究姿勢や教員からの研究支援全般等に関するご感想やご意見、ご要望についてご回答ください。	

2023 年度授業評価アンケート内容（看護学特別研究）

【科目名：看護学特別研究】

本アンケートは、大学院における授業改善を目的として実施しています。個人を特定できないよう無記名でご回答いただけます。回答は自由意志ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。

質問 1～3 について良かった点や困った点、今後のご要望をご回答ください。

なお、本科目の場合、授業は大学院生と指導教員との間の個別指導に近いかたちで行われています。

そのため、以下の質問で研究プロセスとして記されている内容は、正規の授業時間外（場合によっては過年度）に実施されたかもしれません。ここでは、そのようなかたちで行われた研究支援を含めて、評価してください。

No.	質問内容	回答方法
1	研究課題決定から研究計画書作成まで（研究方法・研究デザイン・データ収集方法の検討、倫理的配慮・手続き、研究計画書作成、倫理審査委員会提出書類作成・提出が含まれます）	自由記述
2	データ収集から発表・評価まで（データ収集・分析、修士論文作成、発表・評価が含まれます）	
3	その他、自己の研究姿勢や教員からの研究支援全般等に関するご感想やご意見、ご要望についてご回答下さい。	

様式

大学院授業改善報告書

授業科目名：	授業コード：
担当教員氏名	
開講年度・時期	令和 5 年度 前期 ・ 後期 ・ 通年
1. 授業評価アンケートの結果を踏まえた改善策、または感想等 <u>(この部分はHPで公開します)</u>	
2. 受講している院生の状況や課題等、授業評価アンケートに対するご要望、ご意見等 <u>(この部分は大学院FD委員会で共有します)</u>	

※令和6年3月27日(水)を目途にご返送願います。